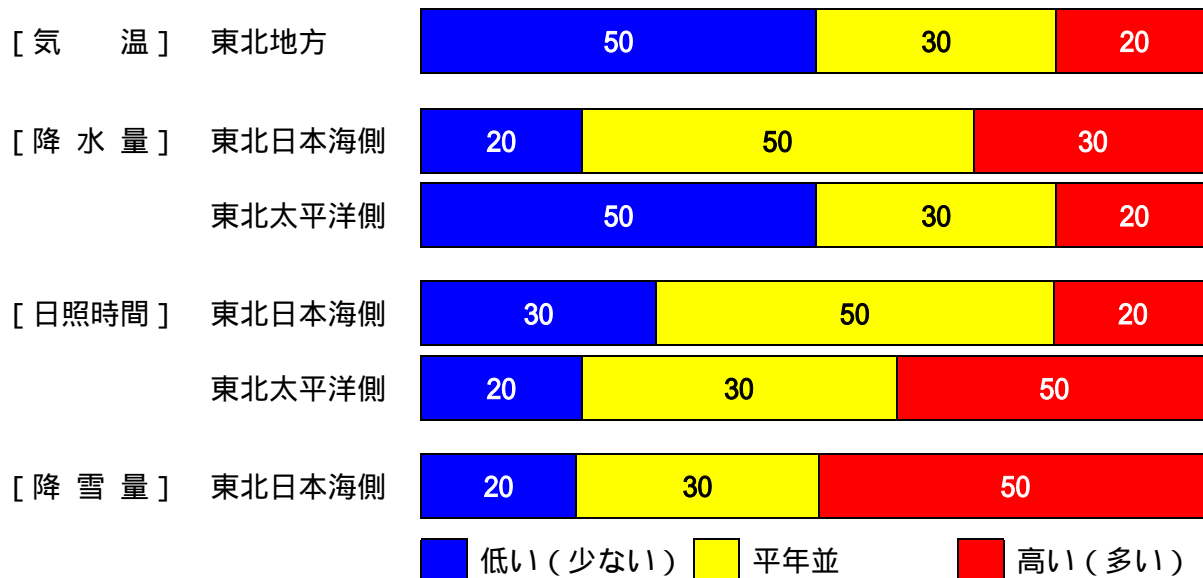


東北地方の 1 か月予報解説資料（予報期間：12 月 22 日～1 月 21 日）

平成 13 年 12 月 21 日 仙台管区气象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率（％）



[気 温]: 東北地方は「低い」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「高い」の可能性は 20%と小さい。

[降 水 量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は 30%です。「少ない」の可能性は 20%と小さい。

東北太平洋側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「多い」の可能性は 20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は 30%です。「多い」の可能性は 20%と小さい。

東北太平洋側は「多い」の可能性が大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「少ない」の可能性は 20%と小さい。

[降 雪 量]: 東北日本海側は「多い」の可能性が大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「少ない」の可能性は 20%と小さい。

2．予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

期間を通して冬型の気圧配置が現れやすいでしょう。東北日本海側では、平年同様曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

平均気温は低いでしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数：東北日本海側約5日、東北太平洋側約17日

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 冬型の気圧配置が続く見込みです。明日(22日)は荒れた天気となるでしょう。東北日本海側では雪の降る日が多く、東北太平洋側では沿岸部を中心に概ね晴れますが、期間の中頃は曇りや雪となる見込みです。

平均気温は低いでしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約4日

2週目…………… 冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北日本海側では、平年同様曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

平均気温は低いでしょう。

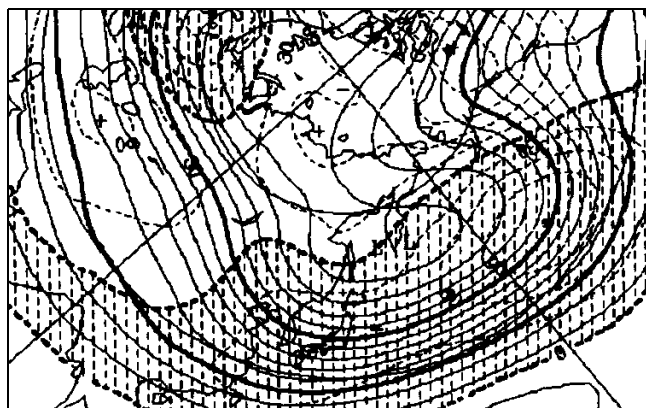
平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約4日

3～4週目…………… 冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北日本海側では、平年同様曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

平均気温は低いでしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約2日、東北太平洋側約9日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

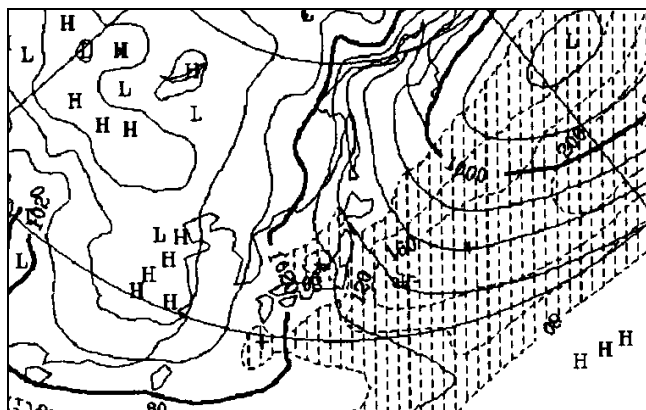


月平均の 500hPa 高度・偏差
（等高線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差）

・ 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、極付近は正偏差で、日本付近を含む中緯度帯は広く負偏差域に覆われる。このため、日本付近へは寒気が南下しやすい。

週別（図略）では、1 週目、極付近からの負偏差域が日本付近まで覆う。日本付近はやや西谷で、西日本ほど寒気の影響を受けやすい。2、3～4 週目は月平均とほぼ同様。



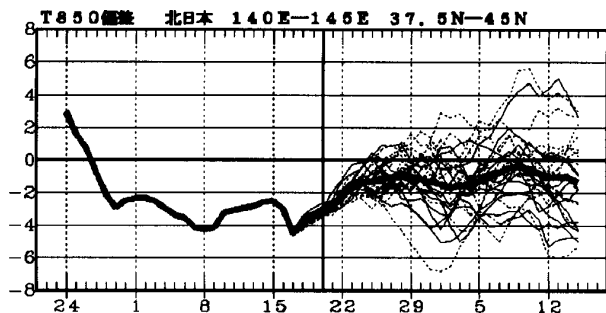
月平均の地上気圧と降水量
（等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上）

・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、中国大陸には優勢な高気圧があり、アリューシャン付近には発達した低気圧があって、日本付近は冬型の気圧配置となっている。

まとまった降水域は、日本の東海上だが、日本海にも冬型に伴う降水域が広がる。

週別（図略）でも、月平均とほぼ同様で、冬型の気圧配置が続く。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

（縦軸：気温平年差（℃） 横軸：日付）

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、平年を下回った状態で推移する。

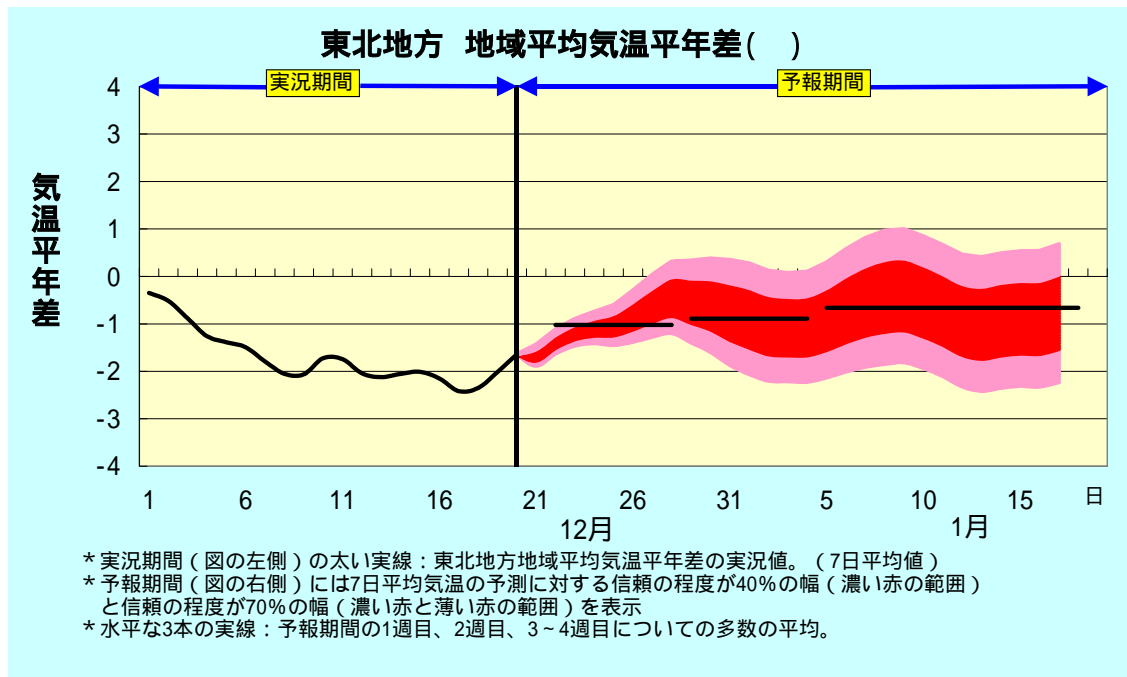
なお、2 週目以降は各メンバーのばらつきが大きい。

3．東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、すべての週で「低い」を予測している。

予報は、予測通りとする。

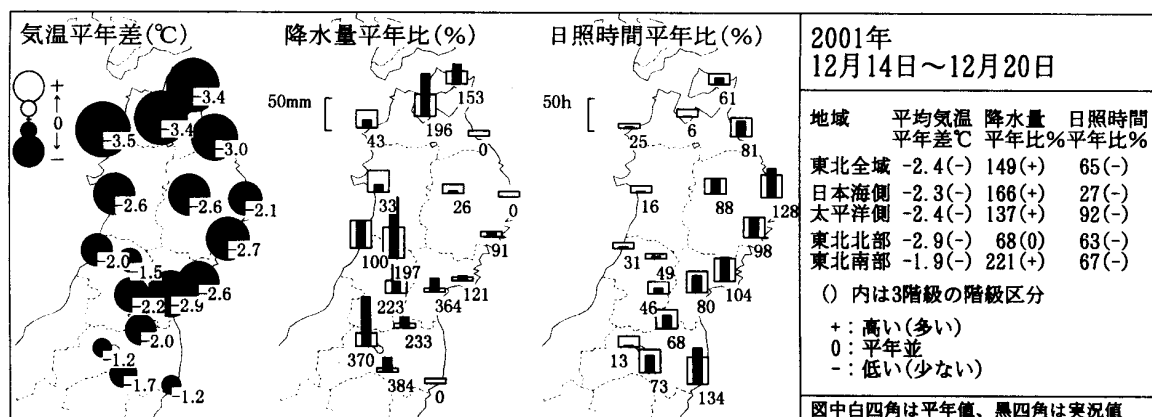
なお、予報の信頼度は小さい。



4．最近1週間（12月14日～12月20日）の天候の経過

期間を通して冬型の気圧配置が続き、東北日本海側は雪となり、東北太平洋側は晴れる日が多かった。特に、14～15日は冬型の気圧配置が強まり、東北全域で雪となって各地で暴風や大雪のため交通障害が起きた。15日の降雪の深さ日合計は、山形で36cm、仙台・福島で19cm、若松で52cmなどだった。

平均気温は、東北地方で平年差-2.4 と低かった。降水量は、東东北部で平年比68%と平年並、東北南部で平年比221%と多かった。日照時間は、東北地方で平年比65%と少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)